

LED SPARK 50

取扱説明書

Ver1.00

はじめに

この度は LEDSPARK50 をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。商品の性能を十分に発揮させ、末永くお使い頂くために、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

また、本書はいつでも読める場所に保管してください。

商品概要

LEDSPARK50 は 132 個の SMD5050 を装備した、コンパクトかつパワフルなストロボです。

スペック

電圧	: AC90-260V、50/60Hz
消費電力	: 60W
LED	: SMD5050 x 132 個
色温度	: 7000k
コントロール	: DMX, AUTO, SOUND, SLAVE
DMX チャンネル数	: 3
寸法	: 14.4(W) x 16.6(H) x 36.5(D) cm
重量	: 2.8kg

使用上の注意

1. 屋内の安全な場所でご使用ください。
2. 梱包されたまま電源をオンにしないでください。空気循環のための適切なスペースを確保してからご使用ください。
3. 感電防止のため、アースは必ず接続してください。
4. 本体の分解、修理は危険ですのでお止めください。
5. ストロボは強い光を発するので、光の刺激に弱い方はご注意ください。
6. 公共の場所で使用する際には適切な注意を促してください。
7. 目にダメージを与える可能性があるため、ストロボを直視しないでください。

動作モードと機能

LEDFLASH50 には、4 種類の動作モードがあります。

- ・DMX モード : DMX コントローラーを使用して、本体を制御することができます。
- ・AUTO モード : LEDSPARK50 を単体で動作させる際に使用します。
- ・AUDIO モード : 音楽に合わせて LEDSPARK50 を単体で動作させる際に使用します。
- ・SLAVE モード : AUTO モード、AUDIO モードの機器と SLAVE モードの機器を DMX ケーブルで接続することにより、複数の灯体を同期させることができます。

SELF-PROTEC 機能：8-10 秒程度点灯状態が続いた場合、自動的に半点灯となり、灯体を保護します。

ディップスイッチのご使用方法

モードの変更は、本体背面のディップスイッチで行います。

DMX モード		DMX モードで使用するには、10 番のディップスイッチをオフにし、1 から9番のディップスイッチを使用して DMX アドレスの設定を行います。※1
AUTO モード		AUTO モードでは、8、9 番のディップスイッチをオフにし、10 番のディップスイッチをオンにしてください。※2
AUDIO モード		サウンドアクティブモードは、8 番のディップスイッチをオフにし、9、10 番のディップスイッチをオンにしてください。※2
SLAVE モード		スレーブモードに設定するには1 から10 番のディップスイッチをすべてオフにしてください。

※1 DMX チャンネルマッピング

DMX チャンネル	機能	値
1ch	INTENSITY	0-255
2ch	RATE	0-255
3ch	DURATION	0-255

※2 AUTO モード/AUDIO モードは、背面のディップスイッチで点滅の速度と間隔を設定することができます。

・スイッチ 1～3 SPEED 設定 (8 パターン)

DIP SWITCH	1	2	3
SPEED 1	on	on	on
SPEED 2	off	on	on
SPEED 3	on	off	on
SPEED 4	off	off	on
SPEED 5	on	on	off
SPEED 6	off	on	off
SPEED 7	on	off	off
SPEED 8	off	off	off

・ 4～7 DURATION 設定 (6 パターン)

DIP SWITCH	4	5	6	7
DURATION 1	off	on	on	off
DURATION 2	on	off	on	off
DURATION 3	off	off	on	off
DURATION 4	on	on	off	off
DURATION 5	on	off	off	off
DURATION 6	off	off	off	off

故障かなと思ったら

DMX が反応しない: ディップスイッチの設定をご確認ください。10 番のスイッチはオフになっている必要があります。

電源が入らない: 電源が正しく接続されているか確認してください。

DMX モード時、勝手にストロボが点滅する: DMX チェインの最後に、ターミネーターが使用されているかどうか確認してください。

メンテナンス

本製品の機能を正常に保つため、定期的なクリーニング/メンテナンスをお勧め致します。

通気口が埃などでふさがれていないか確認してください。オーバーヒートから本体を保護するため、毎月確認してください。SMD を長期間使用するにあたってとても重要です。

外側は一ヶ月に一回、布と少量の家庭用洗剤を使用し、クリーニングしてください。フォグマシーン等から発生するグリコールを除去することができます。溶剤や酸性/アルカリ性の洗剤はご使用にならないでください。

ディップ スイッチによるチャンネル設定

ディップスイッチを使用してチャンネル設定を行う照明機器のチャンネル設定は、下記の表を参照して下さい。設定方法についての詳細につきましては次項の『ディップスイッチによる DMX チャンネルの設定方法(詳細)』を参照して下さい。

ch							
1		19		37		55	
2		20		38		56	
3		21		39		57	
4		22		40		58	
5		23		41		59	
6		24		42		60	
7		25		43		61	
8		26		44		62	
9		27		45		63	
10		28		46		64	
11		29		47			
12		30		48		128	
13		31		49			
14		32		50		256	
15		33		51			
16		34		52		512	
17		35		53			
18		36		54			



ディップスイッチによる DMX チャンネルの設定方法 (詳細)

DMX のスタートチャンネルをディップスイッチで決めるタイプはすべて二進法で計算されています。

<二進法とはなにか？>






通常私たちの生活では十進法が使用されています。十進法とは、0～9を使って数字を表わし、10になったら位を上げるという考え方です。二進法とは、0もしくは1を使って数字を表わし、2になったら位を上げるという考え方です。






例をあげると

十進法	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
二進法	0	1	10	11	100	101	110	111	1000	1001	1010	1011

この様になり、二進法計算のディップスイッチでチャンネルを決める場合、『0=OFF 1=ON』の考え方になります。

スイッチの設定上 ON / OFF の並びが左右逆での繰り上げで設定となりますが、スイッチで表記した場合






十進法	0	1	2	3	4
二進法	0	1	10	11	100
DIP SWITCH					






十進法	5	6	7	8	9
二進法	101	110	111	1000	1001
DIP SWITCH					

この様になります。

また、位の高いチャンネルを設定する場合、下記の方法を覚えておくと簡単にチャンネルの設定が可能となります。

各番号のスイッチのみ ON にした場合

十進法	1	2	4	8	16
二進法	1	10	100	1000	10000
DIP SWITCH					

十進法	32	64	128	256	512
二進法	101	110	111	1000	10000
DIP SWITCH					

となりますが、通常の 10 進法と同様に、足し算ですべてのチャンネルを即座に計算することが可能となります。またその場合、全ての計算において、設定したいチャンネル数を上記の『各番号のスイッチのみを ON にした場合』にある、1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128, 256 の数字に分解して考える必要があります。

例)

チャンネルを 40 に設定したい場合：

$$40 = 32 + 8 = \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array}$$

チャンネルを 62 に設定したい場合：

$$62 = 32 + 16 + 8 + 4 + 2$$

$$= \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array}$$

$$= \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 & 10 \\ \hline \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare & \blacksquare \\ \hline \end{array}$$

この様にして、簡単にチャンネル数を設定する事が可能となります。